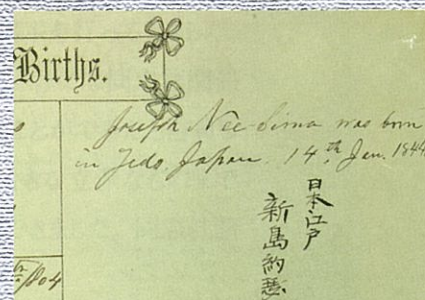
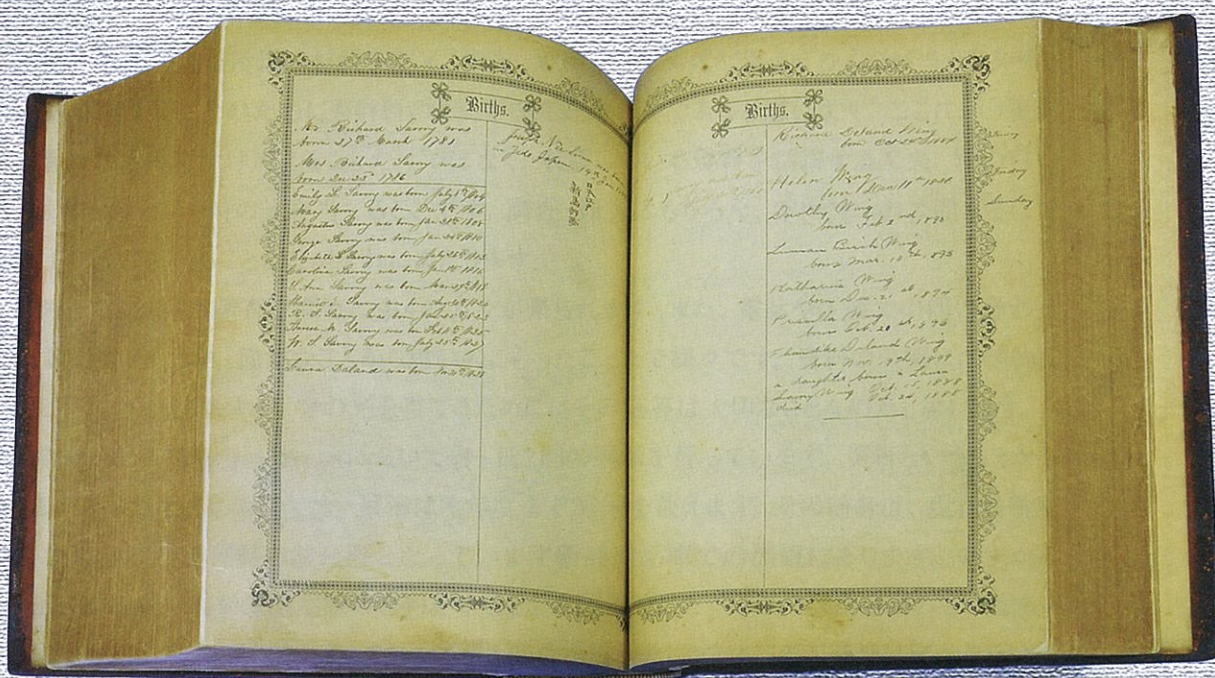


同志社大学

# 同志社社史資料センター報



第6号  
2009年度

1. 巻頭言:2009年度の報告にあたって
2. コラム:会津藩士の京都評判記
3. 資料業務
4. 展示
5. 公開講演会
6. 研究活動
7. 第167回新島襄生誕記念会
8. 新島旧邸
9. 委員会



---

## 2009年度の報告にあたって

---

同志社社史資料センター  
所 長 露 口 卓 也

同志社の同志社たる所以の材料を整え、保存・管理して次世代に伝えてゆくのが当センターの基本的任務ですが、そのためにも材料のたえざる更新が必要であると思います。ここにいう更新とは、新たな材料を付け加えることだけではなく、収蔵している資料を活用する工夫、別の言い方をしますと今という時の光を当てることです。調査・研究はもちろん、学内外への公開などのできるだけの便宜を図ることなどがそれにあたります。

センターには資料の調査や閲覧に多くの方々が来られます。また、電話や手紙での問い合わせも年間数百件あります。簡単なことから思いのこもったことまで様々です。資料の公開には制約もあり難しい場合もありますが、今の光を当てるためにはその応答は大切なことなのだと思います。

ご存知のようにNeesima Roomにおいて春・秋2回の展示を行っています。更新ということからして、この事業はとても大事です。展示は本年度まで36回を数えます。その前身は、現在は新島襄ならびにその関係資料の収蔵庫となっています新島遺品庫での展覧にあります。ですからNeesima Roomもはじめは遺品庫の資料を中心とした展示でした。いまでは遺品庫のものはネットで観ることができるようになりましたし、展示も回数を重ねましたから、その基調は変わらないにしても、少しずつ展示の幅も広がってきました。

ここ2年ばかり、春は主として学内に向けて、秋は学外との関係を視点とした展示を行ってきました。本年度は、春は同志社のエンブレムを、秋は新島八重の生涯を主題としました。春には同志社関係各位の、秋には会津の方々の多大なご協力のおかげで充実した展示を行なうことができたと自負しています。同志社マークの実に多彩で豊富な品々、小さなかわいいものから大きな立派なものまでを一堂に飾ってみますと、同志社の香気が溢れんばかりの世界を感じることができました。同志社諸学校の学生・生徒諸君がにぎやかに観てもらえたことが何よりうれしいことでした。

秋の展示は、これまでさほど注目されてこなかった新島八重を顕彰すること、同志社開業に因縁あさからぬ会津という土地を認知すること、という2つの目的をもって行いました。八重の新たな資料が確認できたこと、ご好意によりその資料の展示ができたことは期待以上の成果でした。また、お二人の講師をお招きして会津と京都時代の八重を語っていただいた公開講演会は、会場に入りきれないほどの盛況でしたし、新島旧邸の見学者数は例年を相当に上回るものでした。

研究者の方々、情報をお寄せいただいた方々、展示や講演にご協力していただいた方々に御礼申し上げるとともに、今という時の光を当てることによって資料の整理・保存・管理を充実したものとする工夫を重ねてゆきたいと思っています。

---

〈第36回Neesima Room企画展に寄せて〉

## 会津藩士の京都評判記

「京都と会津」というと幕末、京都守護職に就任した第9代会津藩主松平容保<sup>かたもり</sup>が知られる。もちろん京都と会津の関係はずっと遡り、歴代藩主の多くが將軍名代として上京した。

会津藩第7代藩主松平容衆<sup>かたひろ</sup>は、享和3(1803)年会津若松城内で生まれ、文化3(1806)年わずか3歳で家督を相続した。これは容衆の父容住<sup>かた</sup>が在位わずか5カ月で亡くなったため、歴代藩主のうちでも最年少記録である。加えて容衆は生来、身体が弱かったのでお守りの家老は、夜も寝られない毎日であった。この時代、跡取りの男子がいなかったら御家断絶となってしまうからであった。

さて本来家督を相続する際には、將軍に謁見し御礼をしなければならぬ。しかし病弱な容衆にとって長旅は困難で、相続は認められたものの何度も御礼の延期願いを重ねた。ようやく江戸に向かったのは、文化7(1810)年4月7歳の時であった。ただこの時は將軍への御目見はなく、名代が登城し「長々在国の御礼」を述べただけであった。容衆は頻繁に尿意をもよおし、長く座していることが困難であったため、ここでも御目見の延期を願っていたのである。

3年後、ようやく身体が丈夫になった容衆の初めての御目見が、文化10(1813)年5月と決った。家格の定め通り家老ら6人の家臣も、同時に御目見を許された。容衆10歳の時であったが、初めてのことであり家臣らの心配も尋常ではなかったが、いささかの滞りもなく諸事万端見事にこなし、將軍からもお褒めをいただいたくらいであった。

この時の印象が良かったのであろうか、その3年後容衆は將軍の名代として参内<sup>さんだい</sup>が決ったのである。過去、京都への將軍名代の会津藩主は、初代保科正之が42歳の時、3代松平正容<sup>まさかた</sup>が18歳で、4代松平容貞<sup>かたさだ</sup>が17歳、そして5代松平容頌<sup>かたのぶ</sup>の16歳に続き、最年少の13歳での名代であった。出発は文化13(1816)年4月26日、馬上35騎、総勢3,400人余、ほかに先発隊190人余という大変な人数で、大勢の人々が見送るなか江戸上屋敷を出発した。京都には5月10日到



大名行列図(会津若松市立会津図書館所蔵)



着、参内は16日と決った。何しろ弱冠13歳で天皇に拝謁するのであるから、京都所司代大久保加賀守始め皆が心配した。このため12日から二條前左大臣治孝から家臣が派遣されることになった。二條家は初代藩主保科正之の姉、東福門院和子まさこの關係で以前から付き合いがあり、代々の上京の際も格別懇切にしてもらっていた。二條家の家臣ら3人が容衆に宮中作法を伝授、以降対面の相手によって何度もある規定の衣服の着替えから、身の回りの世話まで一切の面倒をみてもらう。

16日いよいよ参内の日、当日朝8時過ぎ宿舎である薩摩藩邸を出発し、施薬院で昼食着替え、御所に入ったのは午後4時であった。ここで天皇に口上を述べ竜顔を拝し天盃を頂戴、太刀目録や蠟燭などを献上し、退出したのは午後10時であった。そのあとも中宮御所へ回り施薬院で夜食着替え、さらに一条関白、近衛左大臣ほかに挨拶回りで宿舎に帰ったのは、何と翌朝6時過ぎであった。19日は御酒饌頂戴のため参内、舞楽拝見のところ雨で中止、かわりに御鳳輦ほうれんや御所内を拝見する。鳳輦とは天皇の儀式で行幸の際に乘る輿こしである。終わって挨拶回り、帰ったのは午前零時であった。21日はお暇の挨拶、右近衛少将の勅許があり、先日延期となった舞楽拝見、そののちまたも各方面へ挨拶回り、それでもこの日は午後10時に戻ることができた。その他の日も知恩院、泉涌寺、二条城、高台寺、清水寺などの見学、さらに大勢の来客の相手とまったく休む暇もない超過密日

程であった。

結局参内は三度にも及んだが、事前に作法は習ったとはいえ、宮中では些かの萎縮も無く、口上や立ち居振る舞い、御礼言上、勅答など大人も及ばぬ位に立派に勤め上げ、公家や幕府役人一同皆大いに感心したという。また衣冠のなりもまるで大臣の公達きんだちのよう、との評判をとった。「言語の間合いは如何にも幼年と見えども、公私の動き、諸事滞りなく首尾よく勤め」と、一連の評価は会津藩ではなく第三者から見たものであり、お世辞ではないと思われる。

誉められたのは容衆だけではなかった。お供の大勢の会津藩士も道中、在京中とも決まりを良く守り、いささかの不埒なことも無かった。多人数のため藩士らは京都では町屋に宿泊することになったが、元来京都人は宿を貸すことを好まなかった。最初嫌がった京の人々も藩士の真面目で律儀な性格が追々理解され、宿を貸さなかった者が残念に思うほどであったという。

最初会津藩士が京都に到着した際、京都の子どもたちは藩士全員の無骨で粗末な綿服を見て失笑したという。それでも質素儉約を守る藩士の姿を見て、帰るころは「会津家は大家ゆえ粗末な見苦しい服が却って似合う。これを小藩の小人数が真似をしたら誠におかしきもの」と変な誉め方もされた。

野口 信一

元会津若松市立会津図書館館長

# 資料業務

## 1. 資料整理

社史資料センター綱別蔵書冊数(逐次刊行物は除く)

(2010年3月31日現在)

	00	10	20	30	40	50	60	70	80	90	合計	比率
0 総記	0	49	197	36	77	3	32	23	106	1,542	2,065	19.6%
1 哲学	15	8	165	32	25	143	44	20	80	1,399	1,931	18.3%
2 歴史	34	1,029	99	39	0	32	0	0	884	200	2,317	22.0%
3 社会	112	162	146	139	9	12	148	1,802	14	23	2,567	24.4%
4 自然	29	22	14	10	10	19	32	23	20	57	236	2.2%
5 技術	10	12	49	7	7	4	5	4	10	14	122	1.2%
6 産業	12	23	1	0	0	2	3	23	10	3	77	0.7%
7 芸術	23	2	75	9	13	20	38	6	24	7	217	2.1%
8 言語	8	69	15	67	9	4	0	2	1	10	185	1.8%
9 文学	31	552	116	84	23	2	0	0	2	1	811	7.7%

※日本十進分類法による分類

総冊数 10,528冊

## 2. 資料提供(写真資料を中心に)

資料提供日

2009年

- 4月 3日 株式会社映像舎：ケーブルテレビ番組『西三河の肖像』使用／加藤与五郎写真2点
- 15日 NHK 大阪放送局番組制作部：NHK 歴史秘話ヒストリア「明治 悪妻伝説 初代“ハンサムウーマン” 新島八重の生涯」使用／新島八重関係資料28点
- 22日 ファミリー・フォーラム・ジャパン：『著名人クリスチャンの結婚生活』使用／小崎弘道家族写真2点
- 5月 7日 産経新聞社：取材で資料撮影／学友会関係資料1点
- 6月 4日 有限会社プリズム：情報誌『ダテパー』使用／新島襄・八重写真1点
- 8日 「ウィリアム・メレル・ヴォーリズ展 in 近江八幡」実行委員会：ウィリアム・メレル・ヴォーリズ展 in 近江八幡使用／同志社カレッジソング関係資料2点、啓明館関係資料2点、有隣館資料1点
- 24日 上毛新聞社：長期連載企画「山河遥か—上毛・先人の奇跡」総集編掲載／新島襄・八重写真1点
- 7月 29日 会津若松市：会津若松市史DVD『会津の歴史』ダイジェスト版収録／山本寛馬写真1点
- 31日 株式会社マガジンハウスCasa BRUTUS編集部：「美術・建築・デザイン好きの京都入門」特集(『Casa BRUTUS』2009年10月号)使用／新島旧邸外観写真1点
- 8月 5日 韓国SBSテレビ：尹東柱のドキュメンタリー番組使用／尹東柱関係資料2点
- 6日 株式会社おもちゃあ：洛西ケーブルビジョン「Roots」使用／新島襄関連写真2点、W.S. クラーク写真1点



- 
- 9月 1日 有限会社三猿社：『ビジュアル 幕末1000人』(2009年)使用／新島襄・八重写真1点  
11日 島津創業記念資料館：研究のため複写／書籍(*Ritchie's Illustrated Catalogue of Philosophical Instruments, and School Apparatus*, 1868) 1点  
18日 有限会社村田堂：村田堂創業120周年展示会『京都の教育と学生服のあゆみ』使用／学生服ボタン1式、同志社関連写真11点  
10月 1日 いのちのことば社：『聖書を読んだサムライたち』使用／新島襄および八重関係写真4点  
11月 13日 全国大学史史料協議会東日本部会：「日本の大学—その設立と社会」展示使用／同志社英学校初期の校舎(第一寮、第二寮)写真1点  
18日 Milburn-Short Hills Historical Society：同協会newsletter使用／新島襄関連英文書簡画像1点  
12月 9日 有限会社ハユマ：『ビジュアル版 幕末・維新の人物事典』使用／第二寮、ワイルド・ローヴァー号模型、新島関係写真各1点

2010年

- 2月 16日 上武印刷株式会社：『上毛かるた読本』掲載／自責の杖写真

## 博物館学芸員課程の「学外実習」

---

昨年に引き続き本年度も博物館学芸員課程の「学外実習」を受け入れた。

今年度の受け入れは18名で、3つのグループに分けて8月の第1・3・4週の各週3回、計9日にわたってセンター内で実習を実施した。実習テーマは昨年に引き続き「同志社社史資料の調査と整理」で、初日にセンター内の資料収蔵施設の見学を実施し、終了次第資料の整理に取り掛かった。対象となった資料は主に同志社第9代総長である大工原銀太郎関係の書簡であった。昨年同様に2人1組となり、担当者のアドバイスの下で各資料のリスト化作業を行った。実習生からは同志社の歴史に触れることができる貴重な経験であるとの感想も聞かれた。



# 展 示

2009年度は2回のNeesima Room企画展(特別資料展示を含む)を実施し、新島会館、ラーネッド記念図書館、The Doshisha 学校合同説明会、ホームカミングデー2009への展示協力を行った。

## 1. Neesima Room企画展

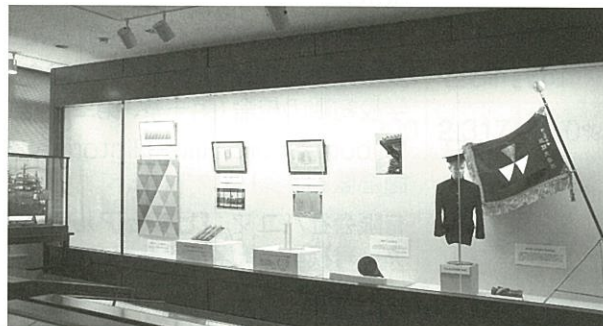
### ・春学期(第35回企画展)

2009年4月1日(水)～7月31日(金)

テーマ:「同志社の表徴(しるし)  
ーエンブレムとデザイン」

来訪者数: 延べ3,209名

実施日数: 113日



### ・秋学期(第36回企画展)

2009年10月1日(木)～

2010年1月31日(日)

テーマ:「新島八重の生涯ー進取と矜持」

来訪者数: 延べ3,369名(特別展を含む)

実施日数: 101日(特別展を含む)

協力: 会津若松市、会津若松市立会津図書館、  
福島県立博物館、会津武家屋敷

## 2. 特別展

### ・特別資料展示「会津に残る八重の面影」

2009年11月6日(金)～12月13日(日)

来訪者数: 延べ1,134名

実施日数: 36日

協力: 会津若松市、会津若松市立会津図書館、福島県立  
博物館、会津武家屋敷



### 3. 展示協力

#### (1) 新島会館

・2009年4月から9月まで

「よみがえるクラーク記念館」をテーマに  
写真パネル20点を展示。

・2009年10月から2010年3月まで

「早稲田と同志社―創立者の想いと交流から―」を  
テーマに写真パネル20点を展示。



#### (2) THE DOSHISHA 学校合同説明会

2009年7月26日(日)、同志社クラーク記念館で行われた標記説明会に展示協力。

#### (3) ラーネッド記念図書館

「早稲田と同志社―新島襄とその弟子たち―」(2009年4月1日～7月31日) 及び「同志社のシンボルマーク」展(2009年10月31日～2010年2月28日)に  
展示協力。

#### (4) ホームカミングデー2009

2009年11月7日(日)開催のホームカミングデー2009で、社史資料調査員による  
展示説明(3回、各30分程度)を実施。



社史資料調査員による展示説明  
(ホームカミングデー)



# 公開講演会



Neesima Room企画展のテーマに添った講演会を春学期と秋学期に実施した。

## 1. 春学期 (第35回Neesima Room企画展)

演 題:「視覚シンボルの意味とその理解」  
 講 師: 井上 智義 (社会学部教授)  
 日 時: 2009年6月20日(土)  
 場 所: 至誠館3階会議室  
 参加者数: 27名



## 2. 秋学期 (第36回Neesima Room企画展)

演 題:「新島八重という人を語る」  
 講 師: 野口 信一 (会津若松市立会津図書館館長)  
         河野 仁昭 (元同志社社史資料室室長)  
 日 時: 2009年12月12日(土)  
 場 所: 至誠館2階21番教室  
 参加者数: 115名





## 研究活動

機関誌の刊行や第一部門研究(新島研究)および第二部門研究(同志社社史研究)の研究会は次のとおりである。

### 1. 第一部門研究(新島研究)研究会 (代表 本井 康博)

- |        |  |
|--------|--|
| 第94回例会 | 2009年4月13日(月) <ul style="list-style-type: none"><li>・①「『新島研究』1号～100号までの掲載論文及び執筆者の特色が見られるか、新島襄の総合研究という観点から今後どのようなテーマの論文掲載が望ましいか」<br/>報告者：服部 泰夫、太田 雅夫</li><li>・②「『安部磯雄日記―青春編―』をめぐって」<br/>報告者：北垣 宗治</li></ul>                                 |
| 第95回例会 | 2009年5月11日(月) <ul style="list-style-type: none"><li>・「鍵屋六之丞小考」<br/>報告者：籠谷 次郎</li></ul>   |
| 第96回例会 | 2009年6月8日(月) <ul style="list-style-type: none"><li>・「新島襄と森永太一郎―誕生より帰国まで―」<br/>報告者：森永長壹郎</li></ul>  |
| 第97回例会 | 2009年7月13日(月) <ul style="list-style-type: none"><li>・「真下五一『小説・新島襄』を読む」<br/>報告者：北垣 宗治</li></ul>   |
| 第98回例会 | 2009年8月8日(土) <ul style="list-style-type: none"><li>・①「新島襄の第1の回心と2つの自伝」<br/>報告者：明楽 誠</li><li>・②「新島とハーディー菊をめぐって」<br/>報告者：磯 英夫</li><li>・③「新島のまなざし―中高生に伝えるべき心―」<br/>報告者：頼富 雅博</li><li>・④「時代を変えた啓蒙思想と系譜―福澤諭吉・大隈重信と新島襄―」<br/>報告者：志村和次郎</li></ul> |





第99回例会	2009年10月19日(月) ・「山本覚馬の生涯と『管見』」 報告者：長嶋 啓介
第100回例会	2009年11月9日(月) ・「山本覚馬と新島襄」(2) 報告者：井上 勝也
第101回例会	2009年12月14日(月) ・「柏木義圓・国家・教育」 報告者：坂井 誠
第102回例会	2010年1月18日(月) ・「新島の『天父』受容と『良心』理解」 報告者：小崎 眞
第103回例会	2010年3月8日(月) ・「キリスト教伝道師 新島襄の試練—2つの社会、差別と平等の間で—」 報告者：那須 頼雅

## 2. 第一部門機関誌

『新島研究』第101号 A5版 266頁 2010年2月28日発行

論 叢	鍵屋六之丞考 山本覚馬と新島襄1 真下五一『小説 新島襄』を読む ピエモンテに憩う イタリアの新島襄 何故同志社はキャプテン・ジェインズを獲得できなかったのか 新島 襄のキリスト論 ～「キリストの真理の証し」と復活論を中心として～ 新島襄の第1の回心と2つの自伝	籠谷 次郎 井上 勝也 北垣 宗治 本井 康博 森永長壹郎
資 料	『安部磯雄日記—青春編—』を読んで 『安部磯雄日記—青春編—』刊行によせて	大越 哲二 明楽 誠 川口 浩 檜皮 瑞樹

『新島研究』第1号～101号総目次[改訂版]

『新島研究』第1号～101号執筆者索引[改訂版]



### 3. 第二部門研究（同志社社史研究）研究会（代表 伊藤彌彦）

第2回例会	2009年5月26日(火) ・「女子高等教育の一形態—同志社女専を中心に—」 報告者：宮澤 正典
第3回例会	2009年6月30日(火) ・「同志社の『国際主義』と留学生史」 報告者：宇治郷 毅
第4回例会	2009年10月29日(木) ・「1930年代帝国日本の中の同志社」 報告者：駒込 武
第5回例会	2009年12月10日(木) ・「『朝鮮・満州』という未知なる経験と『親近感』の諸相 —同志社女学校専門学部1925～1930年卒業旅行に着目して—」 報告者：宇都宮めぐみ
第6回例会	2010年1月26日(火) ・「同志社大学英文学会『主流の創刊』 —1930年代の英文学研究を背景にして—」 報告者：中井 農

### 4. 機関誌

『同志社談叢』第30号 A5版 386頁 2010年3月1日発行

論 叢	アメリカの新島襄 女子高等教育の一形態 —同志社女子専門学校を介して— 「外国・植民地」出身留学生をめぐる表象と役割	伊藤 彌彦 宮澤 正典 宇都宮めぐみ
資料紹介	増野悦興と「基督教青年」 資料紹介 ジェームズ館の寄付者、ジェームズ夫人 —Ellen Stebbins Curtiss James の業績・人となり・肖像 J.D.デイヴィスとN.G.クラークの往復書簡(7)	滝澤 民夫 小枝 弘和 坂本 清音 森永長壹郎
翻 訳	「同志社の土着化(1875～1919)」(その10)	北垣 宗治



# 第167回 新島襄生誕記念会

日時：2010年2月12日(金)

17:00～19:30

場所：同志社新島会館大研修室



## 表彰

新島研究論文賞 磯 英 夫 (映像演出家)

新島研究功績賞 押尾由起子 (NHK大阪放送局番組制作部ディレクター)

## 記念講演

演題：新島襄とハーディー夫人白菊をめぐって

講師：磯 英 夫 (映像演出家)

## 新島襄生誕記念懸賞論文入選者(2009年度)

### 【中学校の部】

最優秀賞

十倉 京香 (同志社中学校1年)  
「新島襄の医学設立の夢と失敗」

優秀賞

佐藤ふみ香 (同志社女子中学校1年)  
「新島襄の願い」

岩谷 悠里 (同志社中学校1年)  
「新島襄の漢詩と人格の足跡」

佳 作

浅川 智基 (新島学園中学校3年)  
「新島襄とスポーツ」

石桁 大輝 (同志社香里中学校1年)  
「命を賭けて実現した改革」

宮下裕美子 (同志社中学校1年)  
「同志社とデントン先生一愛と信仰」

### 【高等学校の部】

最優秀賞

山川 陽介 (東北学院高等学校2年)  
「新島襄が東北・仙台、そしてわが母校『東北学院』に遺したもの」

優秀賞

菊宮 朱音 (同志社国際高等学校3年)  
「受け取ったもの」

西尾 真衣 (同志社国際高等学校3年)  
「新島襄と津田梅子—理想の学校作りに生涯を捧げて—」

佳 作

神部 優紀 (新島学園高等学校3年)  
「新島襄の目指した教育—その視線の先に見据えていたもの—」

小南 理恵 (同志社国際高等学校3年)  
「新島襄とロビンソン・クルーソー」

## 新島旧邸

ボストンの友人J.M.シアーズの寄付によって建てられた新島襄の私邸で、和洋折衷の木造二階建て住宅として、また、同志社創立者の旧居として価値が高く、1985年に家具・調度類を含めて京都市有形文化財に指定された。

### ■公開日

3月～7月、9月～11月の毎週水・土・日曜日(ただし祝日、休日は除く)  
春と秋の京都御所一般公開期間中の毎日、および11月29日(同志社創立記念日)

### ■公開時間

10:00～16:00

### 〈2009年度見学者数〉

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	3月	合計
2,033人	745人	565人	518人	548人	682人	2,151人	621人	7,863人

※2009年4月22日に、NHKのテレビ番組「歴史秘話ヒストリア」で新島旧邸が紹介された。



新島旧邸外観



寺町通に面した木戸から玄関への小道



応接間



## 委員会

### 同志社社史資料センター委員会委員 (2009年度)

露口 卓也 同志社社史資料センター所長  
圓月 勝博 教務部長  
片山 傳生 企画部長  
中山 健二 総務部長  
神谷 遊 人文科学研究所長  
山田 史郎 歴史資料館長  
山本 修 法人事務部長  
山田 邦和 女子大学現代社会学部教授

菊地 登 高等学校教諭  
瀧 英次 香里中学校・高等学校教頭  
辻村 好 女子中学校・高等学校教頭  
敦賀 昭夫 国際中学校・高等学校教諭  
竹山 幸男 中学校教頭  
本井 康博 神学部教授  
出原 政雄 法学部教授

### 同志社社史資料センター運営委員会委員 (2009年度)

露口 卓也 同志社社史資料センター所長  
神谷 遊 人文科学研究所長  
山本 修 法人事務部長  
本井 康博 神学部教授

出原 政雄 法学部教授  
山田 邦和 女子大学現代社会学部教授  
辻村 好 女子中学校・高等学校教頭  
竹山 幸男 中学校教頭

**事務室** 所長 露口 卓也  
事務長 落合万里子  
担当課長 馬淵 吉倫  
社史資料調査員 小枝 弘和  
社史資料調査員 布施 智子  
アルバイト 3名

**新島旧邸** アルバイト 3名 (5名で交代勤務)  
**Neesima Room** 院生アルバイト 1名 (6名で交代勤務)

# 同志社社史資料センター規程

2004年4月24日制定  
2004年5月 1日施行

## (設置)

第1条 本学同志社社史資料センター(以下「センター」という。)を置く。

## (目的)

第2条 センターは、創立者新島襄並びに同志社関連資料の収集、整理、保存及び公開業務を継続、発展させ、同志社創立以来の歴史と伝統を後世に継承していくとともに同志社教育の充実と発展に寄与することを目的とする。

## (事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するために、以下の事業を行う。

- (1) 同志社社史資料の研究、収集、整理、保存及び公開に関すること。
- (2) 新島研究に関すること。
- (3) 同志社社史編纂に関すること。
- (4) 『同志社談叢』の発行に関すること。
- (5) Neesima Room の管理運営に関すること。
- (6) ハリス理化学学校記念展示室の管理運営に関すること。
- (7) 新島遺品庫の管理運営に関すること。
- (8) 新島襄旧邸の管理運営に関すること。
- (9) 新島襄及び同志社建学の精神についての啓蒙活動に関すること。
- (10) その他センター設置の目的に照らして必要と認められる事業

## (所長)

第4条 センターに所長を置く。

- 2 所長は、学長が任命し、センターの業務を統括する。
- 3 所長の任期は1年とし、再任を妨げない。

## (同志社社史資料センター委員会)

第5条 センターに同志社社史資料センター委員会(以下「センター委員会」という。)を置き、以下の事項について審議する。

- (1) センターの事業に関すること。
- (2) 社史資料調査員の候補者推薦に関すること。
- (3) その他必要な事項

## (センター委員会の構成)

第6条 センター委員会は、次の者をもって構成し、委員は学長が委嘱する。

- (1) 所長
- (2) 教務部長、企画部長、総務部長、人文科学研究所長、歴史資料館長及び法人事務部長
- (3) 女子大学、高等学校、香里中学校・高等学校、女子中学校・高等学校、国際中学校・高等学校、中学校から各1名

(4) 学識経験者若干名

- 2 第1項第3号に掲げる委員は、各学校長の推薦により学長が委嘱し、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 第1項第4号に掲げる委員は、所長の推薦により学長が委嘱し、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 センター委員会は、所長が招集し、議長となる。
- 5 センター委員会は、委員の過半数をもって成立し、議事は出席者の2分の1以上の賛成をもって決する。ただし、第5条第2号に係わる議決は出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

## (運営委員会)

第7条 センター委員会に同志社社史資料センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

- 2 運営委員会は、第3条に掲げる事項について計画立案し、センター委員会の議を経てその実施にあたる。

## (運営委員会の構成)

第8条 運営委員会は、次の者で構成する。

- (1) 所長
- (2) 第6条に掲げる者のうち所長が任命する者若干名
- (3) 所長が必要と認めた者若干名
- 2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 3 委員会は、所長が招集し、議長となる。

## (事務室)

第9条 センターに事務室を置く。

- 2 事務室に職員若干名を置き、センターの事業、委員会に関わる事務、その他必要な事務を行う。
- 3 センターの事務組織は、同志社大学事務機構規程に定めるところによる。

## (社史資料調査員)

第10条 事務室に社史資料調査員たる職員若干名を置く。

- 2 社史資料調査員は、社史資料の収集、整理、調査、企画、展示等の業務を行う。
- 3 社史資料調査員の選考に関する事項は、別に定める。

## (事務の所管)

第11条 この規程に関する事務は、同志社社史資料センター事務室が行う。

## (改廃)

第12条 この規程の改廃は、センター委員会の議を経て大学評議会で行う。

## 附 則

この規程は、2004年5月1日から施行する。



## 同志社社史資料センター利用要項

2009年5月19日制定

### (目的)

第1条 この要項は「同志社社史資料センター規程」の第3条第1項に則り、同志社社史資料センター(以下「センター」という)が所蔵する資料等(以下「資料等」という)の利用に関する必要事項を定める。

### (センターの業務)

第2条 センターは、資料等の利用に関して次の業務を行う。

- (1) 閲覧
- (2) 複写
- (3) 貸出
- (4) 参考調査

### (公開と利用制限)

第3条 資料等は公開を原則とするが、次のものは利用を制限する。

- (1) 新島遺品庫資料
- (2) 新島旧邸文庫資料
- (3) 非公開を条件に寄贈・寄託を受けている資料
- (4) 破損または汚損を生じる恐れがある資料
- (5) 個人情報に関する資料
  - ア) 現存者の個人情報に関する資料については、「個人情報の保護に関する規程」(法人)と「同志社大学個人情報保護委員会内規」に則る。
  - イ) 物故者の個人情報に関する資料については、以下のものの利用を制限する。
    - ① 没後50年未満のもの
    - ② 故人の重大な秘密であり、公開により遺族等に不利益を与える恐れがあるもの
- (6) センター所長(以下「所長」という)が特に指定する資料等。

### (利用時間)

第4条 資料等を利用できる時間は、大学が定める休日を除いた平日の9時から17時、土曜日の9時から12時とし、夏季休講期間は平日の9時から16時とする。

2 所長が必要と認めたときは、利用時間を変更することができる。

### (閲覧)

第5条 資料等の閲覧は、センター内所定の場所で行うものとする。

### (複写)

第6条 資料等の複写・撮影は、著作権法の範囲内で行うものとする。

- 2 破損の恐れがある資料等は、複写・撮影を制限する。
- 3 出版、放映、展示等のために複写・撮影する場合は、所定の申請書を提出し、所長の承認を得なければならない。

### (貸出)

第7条 貸出ができる資料等は、同志社大学学術情報システム(DOORS)に登録された図書とし、禁帯出図書と逐次刊行物を除く。

- 2 貸出ができる者は、以下とする。
  - ア) 同志社大学学生・教職員
  - イ) 同志社女子大学学生・教職員
  - ウ) 同志社大学と同志社女子大学の図書館利用カード所持者
  - エ) センターが設置する部門研究の参加者
  - オ) その他、所長が特に認めたもの

- 3 貸出冊数は5冊までとし、貸出期間は1ヶ月とする。
- 4 返却を延滞した場合は、当該資料を返却するまで貸出を停止する。

### (特別貸出)

第8条 出版、放映、展示等のため資料等を貸出する場合、利用者は所定の申請書を提出し、所長の許可を得なければならない。

### (紛失、汚損)

第9条 資料等を紛失・汚損したとき、所長は現物または現金による弁償を求めることができる。

### (参考調査)

第10条 センターは、利用者の求めにより次の範囲で参考調査を行い、情報を提供する。

- 1 同志社関係資料の検索
- 2 同志社史に関する事実

### (要項の改廃)

第11条 この要項の改廃は、同志社社史資料センター委員会の議を経て行う。

同志社大学  
同志社社史資料センター報 第6号

---

発行日 2010年4月30日  
編集・発行 同志社大学 同志社社史資料センター  
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入  
Tel. 075-251-3042 Fax. 075-251-3055  
<http://www.doshisha.ac.jp/academics/institute/archives/>

---

表紙写真：新島襄の署名が残るW.T.セイヴォリー旧蔵の家庭聖書

セイヴォリーは、新島が1864年函館から密出国をした時、上海まで乗船したベルリン号のアメリカ人船長。新島の留学中の名前は、日本語名が「新島約瑟」、英語名がJoseph Nee-Simaであった。「約瑟」は「ジョゼフ」の漢字表記。